



反ユダヤ主義の 歴史

【全5巻】

レオン・ポリャコフ
合田正人／菅野賢治監訳

筑摩書房

迫害と排斥と呪詛と…… 峻烈な歴史の中に 〈人間〉の深部を探る 不朽の名著

古代ギリシア・ローマから現代まで、反ユダヤ主義の二千数百年にわたる歴史の歩みを描き出す大著。帝政ロシアに生まれ、フランスを研究の場としてきた著者が、数カ国語を駆使して完成を見た、ヨーロッパと地中海世界及びイスラーム圏総体における画期的通史。

造本体裁＝A5判・上製・カバー装 平均480頁
装幀＝神田昇和

ご注文・お問い合わせは、お近くの書店、
または下記の筑摩書房サービスセンターへお願いいたします。
〒331-8507 さいたま市北区榎引町2-604
☎048(651)0053 FAX048(666)4648

筑摩書房 東京都台東区蔵前2-5-3（本社）

○推薦のことば○内田樹

1977年に完結したレオン・ポリアコフの『反ユダヤ主義の歴史』全五巻はこの歴史研究の領域では最初の、そして今のところ最新の網羅的な「反ユダヤ主義通史」である。

それまでも19世紀末のベルナール・ラザールの『反ユダヤ主義の歴史と原因』、ハンナ・アーレントの『全体主義の起源』、ノーマン・コーンの『シオン賢者の議定書』、ミシェル・ヴィノックの『フランスにおけるナショナリズム、反ユダヤ主義、ファシズム』のような卓越した研究書は存在したが、キリストの時代からくホロコーストまでを通史的に概観した史家はポリアコフをもって嚆矢とする。

私は一時期フランスにおける反ユダヤ主義の歴史を集中的に研究していたことがあり、そのときにはずいぶんこの本のお世話になった。私の手元にある本には赤鉛筆で引かれた無数の傍線が残されている。

そのような好著がこれまで訳出されなかったのは、「反ユダヤ主義の歴史」という研究領域そのものがマイナーであったことがとりあえずの理由だと思われる。だが、私自身は、この領域についての研究は日本人が「ヨーロッパ文明」に伏流する「地下水脈」のようなものに触れるためには必須の作業ではないだろうかと考えている。

だから、今回この浩瀚な著作の邦訳が筑摩書房から刊行されることになったのを私はたいへんうれしく思っている。この邦訳をきっかけにして反ユダヤ主義研究に進む若い研究者がきっと何人か出てきてくれるだろう。そのような将来の研究者世代のための足がかりを残しておいてくれたという点で、この翻訳事業は学術的に大きな意味を持つものだと思う。

訳者の合田正人さんはレヴィナス、ジャンケレヴィッチ、ベルクソンなどユダヤ系哲学者の研究で知られている通り、ユダヤの精神文化に深く通じており、菅野賢治さんは思想史の方法によって、近代反ユダヤ主義を生み出したヨーロッパ社会の政治的・文化的なひずみについてすぐれた研究を残している。この二人はこの領域の訳者としては現在望みうるベストの布陣と言ってよいだろうと思う。大きな仕事を日本の読者と後続する研究者世代のためになし遂げてくれた二人と（おそらくビジネス的にはあまり楽観を許さない）出版を敢行した筑摩書房の見識にあらためて敬意を表したい。

（うちだ・たつる 神戸女学院大学教授・フランス現代思想）

○全巻内容 *年3回、巻数順に刊行の予定。定価各巻不同

*第1回発売日 2005年3月26日 4480861211 定価7140円(税込)

I キリストから宮廷ユダヤ人まで

古代から初期キリスト教における反ユダヤ主義の始まりを検証し、17世紀ヨーロッパまでの歴史を概観する

*第2回発売日 2005年7月予定

II ムハンマドからマラーノへ

ヴォルテールからヴァーグナーまで

自殺に向かうヨーロッパ

現代の反ユダヤ主義